

# 竹取新聞

株式会社 カグヤ  
東京都新宿区西新宿3-2-11  
新宿三井ビルディング  
2号館10階



第69版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

## 心の鏡

見守る保育の実践を二十数年されている、宮崎県にあるたんぽぽ保育園様を訪問させていただきました。園内を見学させて頂きながら、園長の藤田先生へ実践が続く秘訣をお聞きすると「もともと私は旅行会社に勤めていました。だから保育のことは全くわからず、ずっとこの保育を勉強させてもらっています。分らなかったのがかえってよかったのかも知れません。」と教えてくださいました。

育つと、子どもは、人をけなすようになる。とけとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる……。

そのような中、ふと玄関先生に1枚の掲示物、ドロシー・ロー・ノルト作「子は親の鏡」という詩が掲示されているのに気がつきました。『けなされて

この詩についてお聞きすると「先生、保護者、そして来客の方がいつでも目のとまるところに置いて、自分自身を振り返るものとしていいな」と感じたから貼っています。」と仰いました。興味を持った方へすぐに手渡せるようにと印刷し用意されており、まるで本物の鏡のように自分自身の保育への眼差しが写っているようでした。

私たちも自分自身の心の鏡が曇らぬよう、日々振り返り実践を積んでいきたいと思えます。



著書『子どもが育つ魔法の言葉』



頂いた「子は親の鏡」の詩は社内でも掲示しています。

## 感性と育ちを支える

栃木県宇都宮市にある、岩曾保育園様にお伺いしました。園では子どもたちの「生まれながらの感性と育ち」を支える取り組みをされています。

「めなさい!」と言いたくなるころでも、今はあえて子どもを信じて、先生方が「目は離さず、手はギリギリまで出さない」ということを心掛けていると、子どもたちは自分でスルッと体を動かして雲梯から降りることが出来るようになってくるのだそうです。

最近の新たな取り組みについて園長の宇賀神先生からお話を伺いすると、幼児期からの運動遊びの重要性についてお話をして下さいました。「例えば逆上がりにしても、小学校に行つて体が重くなつてからやろうとしても難しい。幼児期から、もっと言えば乳児期から雲梯などに登ったり、ぶら下がったり、体感することによって脳の活性化が図られ運動あそびがより楽しいものとなって生活全体に積極性も出てきます。」と仰り、その為に安田式遊具の1・2歳児用の雲梯を取り入れたのだそうです。

「普通なら」「うわあ危ない、やめなさい!」と言いたくなるころでも、今はあえて子どもを信じて、先生方が「目は離さず、手はギリギリまで出さない」ということを心掛けていると、子どもたちは自分でスルッと体を動かして雲梯から降りることが出来るようになってくるのだそうです。子どもたちの感性と育ちを支えるために、「一人ひとりの「やってみたい」や「挑戦したい」という気持ちを大切に、興味や発達から保育を考えていく。そして、そのために必要な遊具を取り入れて環境を用意する」という一連の流れに、園様が一貫して大切にされている子どもたちへの思いが感じられました。



先生方の見守りの中で、子どもたちが自ら育っていきます

## 新たなご縁

鹿児島県のドリーム保育園、第一ドリーム保育園様を訪問させていただきました。これまで保育環境や書類等、今よりもっと良くしていこうと試行錯誤をされる中で、園長の永園先生は見守る保育に出会われたそうです。

今年度にもたがるタイムングでこの保育に出会い、書類の見直しや保育実習など、精力的に動かれ「3月に保育実習をさせてもらい、自園で実践を積んだ上でモデル園へ1年後もまた実習をさせてもらいたい。」とも仰います。

永園先生は、「ひとりひとりを大切に保育・子どもたちの発達を見る」という私たちの園の方針を具体化できる保育に出会えたことから、「更により良く保育していく保育士の力量を高めたい!子どもたちのより良い育ちにつなげたい!」この思いで、見守る保育の学びを始めたそうです。

この保育との出会い方はそれぞれありますが新たなご縁を頂き、私たちも永園先生のように行動して、振り返り、次へと繋げる実践を積んでいきたいと思えます。

また、チーム保育をしていくことで、職員一人ひとり明確な動きや、無駄な動きを減少していくことで子どもたちも戸惑い無く生活していけることが出来、確実な個別への対応も出来るとうわかり、今まで



園庭も変化を遂げていっています

# CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 大切なことを：

毎年3月11日をカグヤでは「大切なことを忘れないDAY」として震災から学び、自分達が何をしていくのかを改めています。

去年は自分たちの命は自分たちで守れるようにと「カグヤ防災鉄則5ヶ条」を制定し実践を始めましたが、今年皆で振り返ってみると「あの日味わった怖さや、被災地の方々が味わったことなどをすでに忘れてしまっているという事でした。新宿のビルの中で天井が剥がれ落ち、向かいのビルがクニヤグニヤと曲がるのを見て、「もう家族と会えないかもしれない。このまま死ぬかもしれない」



全員集合!



みんなで1食分の非常食を食べてみました!



【カグヤ 防災鉄則5ヶ条】

- 第1条：危機意識の欠如、備えを怠るな
- 第2条：自然への畏敬を忘れるな
- 第3条：固定概念に縛られるな、最善を盡せ
- 第4条：自分のいのちを守ってから他人を助けよ
- 第5条：ピンチの時には野生の勘を取り戻せ

ない」と感じた恐怖。その感じた恐怖を忘れた中での防災について話し合うこと、保存食をどうするか、避難場所はどうするかという事ばかりでした。今回、社長の野見山からも話があったのは、「人間はいつまでも危機感を持つていたくないから安心できるように準備をする。ただ、危機感を忘れないための準備もある。それを考えることが大事。」ということでした。初心もそうですが、忘れてしまつと道に迷つてしまつことがある。だからこそ、忘れずに思い出せる環境を用意していくことを大切にしていきたいと思えます。

## 誕生日はご両親へ

カグヤでは、手作りケーキや「ハッピーポートフォリオ」をプレゼントして、仲間の誕生日を皆でお祝いでいます。「ハッピーポートフォリオ」は、本人の1年間の成長&挑戦記録や、想い出の写真仲間からのお祝いメッセージなどが綴られた冊子ですが、それとは別に、



誕生日当日、ご両親へ贈っています。



写真と共に感謝の気持ちを...

本人のご両親にも1冊のアルバムを、贈っています。こちらは、会社の様子や本人の働きぶりが分かるような写真と共に、本人と仲間のクルー一人ひとりからご両親宛てのメッセージが集まったものです。

そもそも、生んで育ててくれた両親がいたからこそ自分が存在し、今こうして働くことができる...というわけで、誕生日には祝ってもらうばかりでなく、両親へ感謝を届けようと、始めたこの実践。普段なかなか伝えられない「ありがとう」の気持ちを素直に伝えられる、大切な実践になっています。

## 挑戦が拡がって

3月8日に開催された「名古屋ウィメンズマラソン」にクルーが出場しました！昨年が初マラソンで、今年は2回目になります。

マラソン出場のために、彼女は毎朝ランニングを行っていたのですが、その練習が他のクルーにも波及して、毎朝の目課として根付いていきました。それが今ではクルーにとつて、寒い日も、暑い日も、平日も休日も、状況に左右されず

## 一期一会庵

### 「お天道様豊酬面談」

「カグヤでは、毎月の給与明細に「讃給(サンキュー)」と書いて働いている仲間からの感謝の言葉をそれぞれ一言ずつ添えて手紙を手渡しています。これはお金だけでは換算できない豊かさを分かち合おうと3年前から始めている実践です。月初にこの「讃給」の明細を仲間たちから貰うことが待ち遠しく、私たちの大きな楽しみの一つになっています。そして今ではこの「讃給」が発展し、一年に一度の年俸給与改定の時には「お天道様豊酬面談」という実践が新たに加わっています。

具体的に言うと、二人組になって対面しお互いに質問をします。その質問は「今年の私たちの取り組みに感謝状を贈るとしたらどれでしょうか?」他には「この一年で志事(しごと)を通してどんなことをいただきましたか?」など約10項目について一緒に一年を振り返っていきます。一般的に評価というのは誰かが意図的に行うものですが、私たちの評価は見守るを根本にしていますから、お天道

に自分に打ち克つ実践となっています。

名古屋へ出発する前日には、カグヤ一家揃って会社近くの「韋駄天様」にお参りにいきました。「心残りなく、挑戦できますように」とお祈りさせて頂きました。仲間の挑戦が、一家の一番のようになっています。



足の神様：韋駄天尊神



韋駄天様の前で壮行会!

様」と行っているという考え方にしています。一問一問を答えていると刷り込みも取り払われ、自分自身と自分たちの仕事の本当の価値を再確認できます。

正直に働くことで皆様から頂いて沢山の「御陰様」は一体どういふものだったのかを仲間と一緒に振り返る時間は無「の仕合せ」の時間です。今の社会は物が溢れ満たされているものかえって心が満たされなくなっている気がしますが、真の豊酬というものは心の豊かさの中にこそあると私たちは信じています。私たちは「子ども」のしあわせが世界を変える「をモットー」に生き方と働き方の一致に努めています。これらの実践では「生まれる新しい生き甲斐や遣り甲斐のモデルも、未来の子どもたちへのプレゼントとして譲つていきたいと願っています。子どもたちが将来、夢に向かい社会に出たときに多様性を保障し安心できる一つになれるよう、カグヤはこれからも日々の実践を積み重ねて精進していききたいと思えます。

## 編集後記

今月もご覧頂きありがとうございました。年度変わりでお忙しいこと存じます。皆様どうぞご自愛くださいませ。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11  
新宿三井ビルディング2号館10階  
tel.03-5909-7155  
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389  
URL: <http://www.caguya.co.jp>  
E-mail: [support@caguya.co.jp](mailto:support@caguya.co.jp)  
受付時間 月~金 9:00~18:00  
(土・日曜祝祭日を除く)